

平昌で初先発「4年後は私が引っ張る」

スマイル」小西選手 釧路で講演

【釧路】釧路孝仁会記念病院は9日、開院10周年を記念した市民講演会を釧路市生涯学習センターで開いた。釧路出身で平昌冬季五輪アイスホッケー女子日本代表の

GK小西あかね選手(22)＝西武、釧路東高出＝が「夢を追いかけてく世界への挑戦」と題し、努力の大切さを訴えた。

8歳の時、釧路市立愛国小のアイスホッケー同好会に入った小西選手は「みんなより競技を始めるのが遅かったので、リンクの一般開放の時間も使って練習した」と振り返った。女子日本代表からの

選出漏れや大げななどで挫折しかけるたび、「諦めちゃいけない」と練習やりハビリに打ち込み、その後の飛躍につなげた経験を話した。

平昌五輪で初先発したコリア戦では日本の五輪初勝利に貢献し「引っ張ってもらった分、4年後は私が引っ張らない」と決意。外国人選手と渡り合うため、今年も海外挑戦を希望していることも明かした。

講演会ではこのほか、稲垣徹病院長が、グループで取り組む最先端医療について話した。(安房翼)



平昌五輪の経験などを話す小西選手